

校長室だより

# 春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

## ..であること ..になること

子どもを持つ私は「親」であり  
子どもへの私の営みは  
「親になる」こと  
私の職業は「教師」であり  
学校の子どもたちへの私の営みは  
「教師になる」こと

「教師である」ことと「教師になる」こととは違う世界にあります。親としても教師としても完全でない私が「親」となり「教師」となるためには、その姿を求め続けるしかありません。

## そして父になる

少し前の映画ですが「そして父になる」が上映されました。福山雅治さんが父親良多を演じました。

人生の挫折を知らずに過ごしてきた良多。子育ても自分の思いのままに進めてきました。ところが、一人息子良多が6才になった時、出生時に子どもの取り違えがあったことが発覚します。一緒に過ごした6年間を優先するか、血のつながりを優先するか、良多は悩み苦しみます。そして、これまで円満だった夫婦の関係もいつの間にか揺らぎ始めます。

教えられることの多い映画でした。人生の危機を迎え、苦悩し、「そして父になる」。

自分の思い通りになる人生の中では気づかないことがいかに多いことか。

「父である」良多は、この人生の危機に直面したとき、初めて我が子の本当の心に触れ、「父になる」ことができたのでした。

## そして教師になる

それは  
本当の子どもの心に触れたとき  
本当の親の心に触れたとき  
それは  
お互いに心開くとき  
ともに喜び  
ともに涙するとき



## 落書き

世界遺産・法隆寺の国重要文化財の土塀「西院大垣」に、「殺すぞボケ」「ヒマヤネ」と刻んだ落書きが見つかったそうです。

なんと愚かな人間がいるものかと情けなくなってしまう。この落書きは、完全に修復することはできないそうです。

残念ながら、学校の中にもこのような落書きが見られることがあります。この落書きは、書かれた本人にとっては、一生消し去ることはできません。

法隆寺の落書きにしても、書いた本人にしてみれば、ほんの冗談のつもりだったのかもしれませんが、残した傷は大きい。

自分の言動がどのような結果を生み出すのか考えることのできる人間でありたいと思います。

## プレゼント

朝起きるのが苦手な僕はワイワイまったりでフラワーアレンジメントに挑戦した。やっとなできた。

僕は壊わさないように大事に大事に家に持って帰った。

そして、隣の一人暮らしのおばあちゃんにあげた。

毎朝僕を起こしてくれる隣のおばあちゃんだ。

おばあちゃんは、顔をくちやくちやにして喜んでくれた。

おばあちゃん目から涙がこぼれた。

